

外 国 語

1 学習指導及び学習評価の改善・充実

(1) 外国語科における個別最適な学び、協働的な学び

未来の社会を見据え、生徒の資質・能力の育成に当たっては、学習指導要領の趣旨を踏まえ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」という観点から学習活動の充実の方向性を改めて捉え直し、ICTを指導に生かしながら、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図ることが重要である。

ア 「個別最適な学び」の実現

「個別最適な学び」を実現させるためには、一定の目標を全ての生徒が達成することを目指し、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと [やり取り]」、「話すこと [発表]」、「書くこと」の領域別に、教師が生徒一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じて指導方法や教材等を工夫する「指導の個別化」と、生徒一人一人の興味・関心等に応じた異なる目標に向けて、探究的に学びを深めながら、自らの学習が最適となるよう調整する「学習の個性化」を充実させることが必要である。

個別最適な学びの実現に向けた活動等の具体例	
指導 の 個別化	<ul style="list-style-type: none">○「聞くこと」 (例) 一人一台端末を用いて、デジタル音源等を繰り返し聞いて、発音の確認など、必要な情報等を理解する活動○「読むこと」 (例) デジタル音源等を用いた音読練習や、初見の様々な英文読解に取り組む活動○「話すこと [やり取り]」 (例) やり取りに用いる表現を、デジタル音源や映像等を用いて練習する活動○「話すこと [発表]」 (例) カメラやボイスメモ等を使いながら、作成した原稿を基に発表の練習をする活動○「書くこと」 (例) 自分が書いたものの校閲にICT機器を活用し、リライトを行う活動
学習 の 個性化	<p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none">・生徒がテーマに対する自分の考えを発表するために、一人一台端末を活用して情報の探索、データの処理や視覚化、レポートの作成等を行う活動

イ 「協働的な学び」の実現

「協働的な学び」を実現させるためには、生徒同士で協働して英作文を創り上げたり、多様な意見を共有しつつ合意形成を図ったりする学びが必要である。

協働的な学びの実現に向けた活動等の具体例

- 「聞くこと」
(例) 話された内容についてクラウド上で共有し、共通理解を図る活動
- 「読むこと」
(例) グループ内の各生徒が異なる英文を読み、内容を共有してタスクに取り組む活動
- 「話すこと [やり取り]」
(例) ペアやグループで行うディスカッションやディベート
- 「話すこと [発表]」
(例) グループ発表のためのスライドを協働で作成し、グループ内での発表練習
- 「書くこと」
(例) 自分の考えなどをクラウド上で共有したり、発表原稿をグループで作成したりする活動

また、障がいのある生徒については、学習指導要領において、「個に応じた指導」の観点から、個々の生徒の障がいの状態等に応じた指導内容や指導方法の工夫を組織的かつ計画的に行うものとしており、外国語学習を行う場合に障壁となりうるものとして、見えにくさや聞こえにくさ、発音のしにくさ、読み書き等の困難さ、注意の集中を持続することが苦手であることなどがあり、生徒一人一人の様々な教育的ニーズに応じた指導の工夫が求められる。

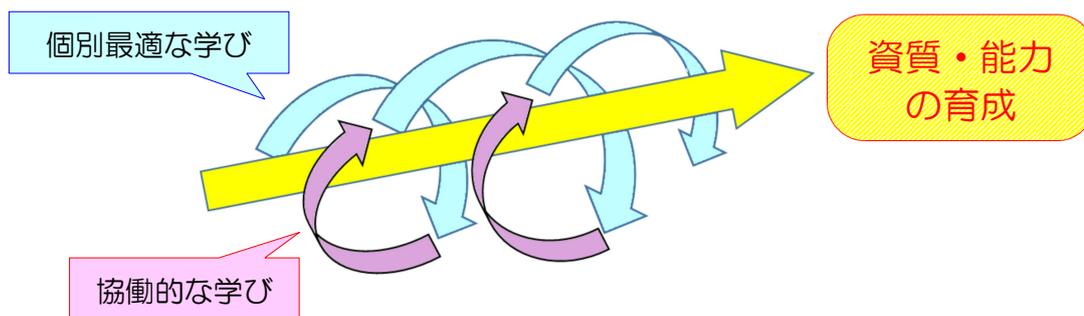
困難さの例	個に応じた指導（手立て）の例
①見えにくさ ②聞こえにくさ ③発音のしにくさ ④読み書きの困難さ ⑤注意の集中を持続することが苦手	①②デジタル化した教材、音源等の配付と活用、分かりやすい視覚的な情報の提示 ③個別の音読練習や話すことを、書くこと又は文字入力に代替 ④キーボードやタッチペンによる入力、音声読み上げ機能の活用 ⑤学習内容を分割して量を調整、興味・関心があることとの関連付け

ただし、障がいの有無に関係なく、提示された情報をどのように認識して理解するか、また、どのように学習を進めたり、知っていることや考えたことなどを表現したりするかは、学習者によって異なる。全ての学習者にとって、最適な方法が唯一存在するものではないことから、学びのユニバーサルデザインの視点を踏まえ、教師が複数の方法を提供し、生徒自身が自分に合った方法を選択できるように環境を整えることが重要である。

ウ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

「個別最適な学び」と「協働的な学び」は、互いに組み合わせあって実現されていくことが多いと考えられるため、各学校においては、生徒の実情等を踏まえながら、授業の中で「個別最適な学び」の成果を「協働的な学び」に生かし、更にその成果を「個別最適な学び」に還元するなど、2つの学びを一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげていくことが大切である。

【「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化のイメージ】



「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る学習活動の流れ

「聞くこと」の例

※【個】…「個別最適な学び」、【協】…協働的な学び

【個】一人一台端末を活用して音声
を聞いたり動画を視聴したりする

⇒

【協】何が話されているかペア
やグループで話し合う

⇒

【個】再度各自で確認する

一人一台端末の活用により、スピードを変えたり、聞き取れるまで繰り返し聞いたりすることで、自分に合った聞き方を選択できる。

聞こえた語句や話された内容を共有することで、自分が聞き取れなかったり誤って理解したりした部分に対して気付きを得ることができる。

協働的な学びを通して得た気付きを基に、再度注意して聞くことで、身に付けるべき語句や表現等を重点的に学習することができる。

「書くこと」及び「話すこと[発表]」の例

【協】あらかじめ準備したグループ発表用の原稿を読み合い、相互にフィードバックを行う

⇒

【個】各自、発表原稿のブラッシュアップに取り組む

⇒

【協】グループでプレゼンテーションの練習を行う

発表全体の流れの観点等から相互にフィードバックすることで、よりよい語句や表現の選択、文章構成等について気付きを得ることができる。

英文の誤りや、発表全体の流れを踏まえた修正をすることで、グループの発表内容として、自分の担当箇所の完成度を高めることができる。

発表を単に分割するのではなく、全体をイメージしながら協働して取り組むことで、グループの発表をより意識して活動できる。

(2) 外国語科における共通性の確保を目指した学び

各学校においては、生徒一人一人の個性や実情に応じて多様な可能性を伸ばす「多様性への対応」を図りつつ、全ての生徒がその後の進路に関わらず、社会で生きていくために広く必要となる資質・能力を共通して身に付けられるよう「共通性の確保」を併せて進めることが必要である。

学習指導要領解説では、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方について、「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること」としており、外国語科における「共通性の確保」とは、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る中で、自己を理解し、自己決定・自己調整ができる力や、自ら問いを立て、多様な他者と協働しつつ、その問いに対する自分なりの答えを導き出し、

行動することのできる力等の育成を目指すことであると考えられる。なお、外国語科における共通性の確保に向けた学習活動の例は、以下のとおりである。

外国語科における「共通性の確保」に向けた学習活動の例
<ul style="list-style-type: none"> ● 日常的な話題や社会的な話題について、自分の考えなどを形成し、再構築すること ● 英語で話したり書いたりして、考えなどをクラスメートと伝え合う活動を通じて、多様な考え方に対する理解や自分の考えをさらに深めること ● 我が国の文化や、英語の背景にある文化に対する関心を高めたり、広い視野から国際理解を深め、国際社会と向き合うことが求められている我が国の一員としての自覚を高めたりすること

(3) 個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させるための学習評価

「個別最適な学び」や「協働的な学び」の充実を図るためには、「学びに向かう力、人間性等」の涵養を重視する必要がある、「指導と評価の一体化」の観点から、「主体的に学習に取り組む態度」についての評価を踏まえ、生徒が自ら学習の進め方を改善していくことができるよう指導・支援していくことが重要である。

外国語科においては、「学びに向かう力、人間性等」の涵養に関わる目標として、「外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う」こととしている。そのため、①「思考・判断・表現」の評価と一体的にパフォーマンステスト等で行う評価と、②生徒が自己の学習を調整しようとする状況（自己調整）の観察に基づく評価により、評価を行うことが考えられる。

【「主体的に学習に取り組む態度」の評価の場面と留意点】

①「思考・判断・表現」の評価と一体的にパフォーマンステスト等で行う評価	②生徒が自己の学習を調整しようとする状況（自己調整）の観察に基づく評価
○生徒が目的や場面、状況などに応じたコミュニケーションを図ろうとしている場面（言語活動を行っている場面）で見取る	○授業での言語活動への取組や、振り返りシートなどの記述が実際に活動への取組に表れている様子を教師が観察し必要に応じて記録して見取る

「思考・判断・表現」と対の形にした評価規準の設定

自己調整による生徒の変容に着目

2 指導と評価の計画例

(1) 英語コミュニケーションⅡの計画例

ア 単元の目標

日常的な話題（e-sports）について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して複数の段落からなる文章で詳しく書いて伝えることができる。

イ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> e-sportsについての英文を聞いたり読んだりするのに必要な語彙や表現を理解している。 聞いたり読んだりしたことを基に、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して複数の段落からなる文章で詳しく書いて伝える技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> e-sportsについての英文を聞いたり読んだりして、概要や要点、詳細を捉えている。 聞いたり読んだりしたことを基に、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して複数の段落からなる文章で詳しく書いて伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> e-sportsについての英文を聞いたり読んだりして、概要や要点、詳細を捉えようとしている。 聞いたり読んだりしたことを基に、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して複数の段落からなる文章で詳しく書いて伝えようとしている。

ウ 単元の指導と評価の計画（10時間）

時間	ねらい（■）、各時間における学習活動等（丸数字） （学習活動の概要、主発問、指導上の留意点）	評価の観点		
		知	思	態
1～3	<p>■e-sportsに関する興味・関心を喚起するとともに、e-sportsについての英文を理解している。</p> <p>①「e-sportsはスポーツか」という問いについて、理由とともにペアで意見を伝え合う。</p> <p>②③e-sportsはどのような点でスポーツと言えるのか、または言えないのかについて、教科書本文を聞いたり読んだりして理解した内容を共有する。</p>	○		
4～8	<p>■e-sportsとスポーツの比較を通して、自分の考えを再構築する。</p> <p>④⑤e-sportsに関する資料や記事から、e-sportsとスポーツとの類似点や相違点を読み取る。</p> <p>⑥読み取った類似点及び相違点を全体で共有し、個人でいくつかの項目に分類する。※「エ 学習指導案」</p> <p>⑦分類した内容をグループ内で発表し、その後全体で、英語によるやり取りを通して共有する。</p> <p>⑧「e-sportsはスポーツと言えるか」という問いについて、自分の考えを理由や根拠とともに書いてまとめる。</p>		○	
9～10	<p>■e-sportsについて、自分の考えを論理的に表現する。</p> <p>⑨聞き手を説得することができるよう、意見や主張を理由や根拠とともに詳しく話して伝え合う。</p> <p>⑩与えられた問いに対する自分の考えを、2つの理由とともに、複数の段落からなる文章で書いてまとめる。</p>	○	○	○

教科書本文の理解や、語彙や文法等の知識と技能を評価する。

情報の整理・分析の状況、言語活動への取組状況を評価する。

10時間目に、パフォーマンステストを実施。単元の目標の達成状況を評価する。

エ 学習指導案（6時間目／10時間中）

(ア) 本時の目標

e-sportsとスポーツとの相違点や類似点について整理し、英語で話したり書いたりして、自分の考えを伝え合うことができる。

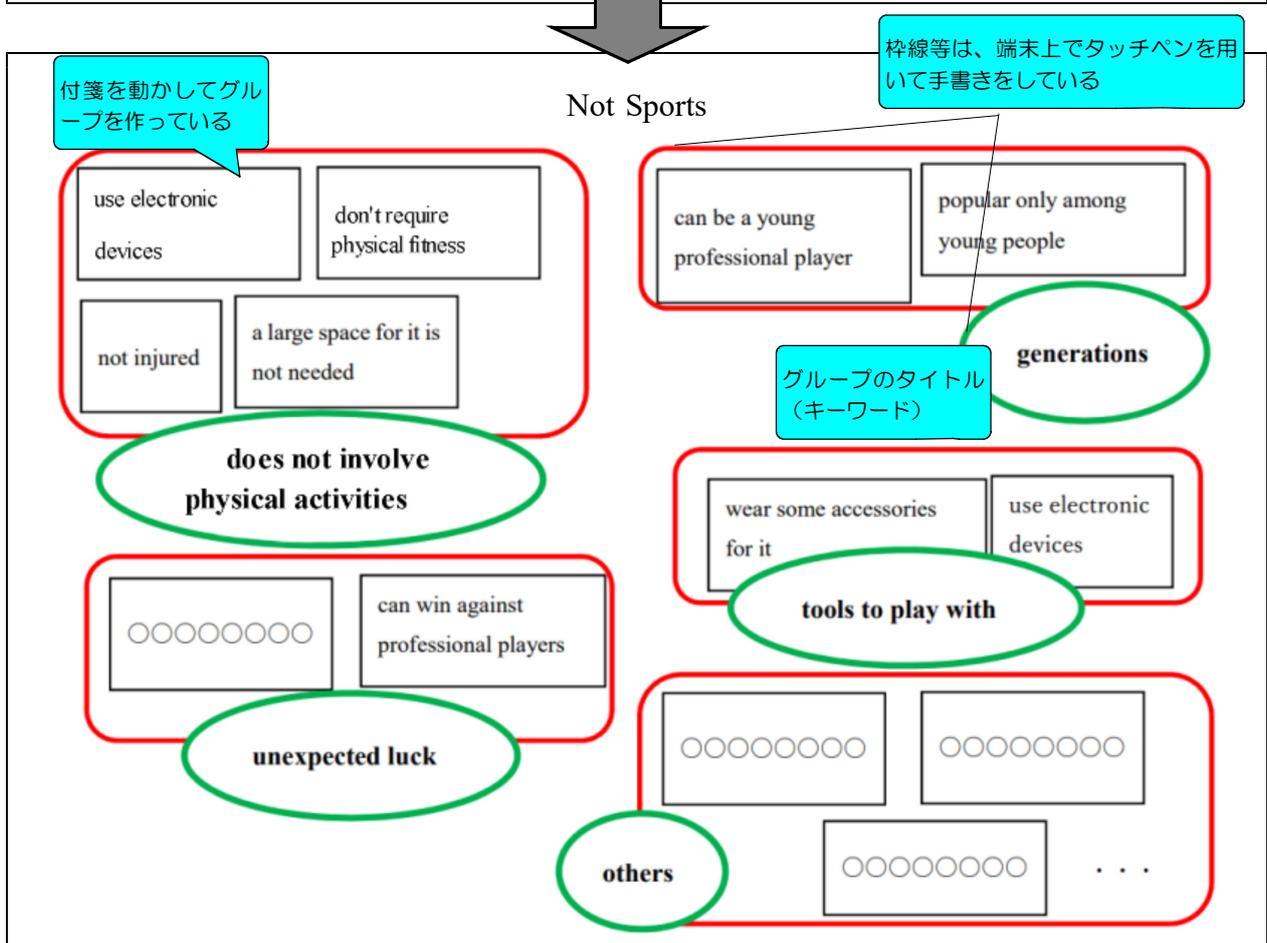
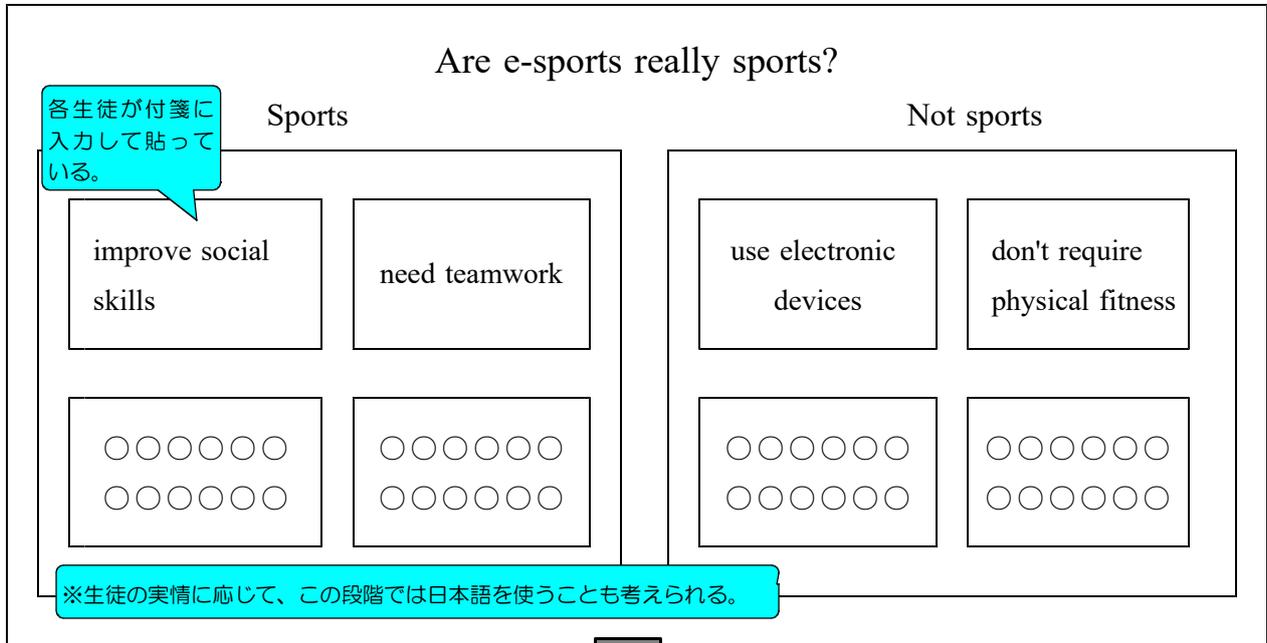
(イ) 本時の展開

過程	学習内容	生徒の学習活動	指導上の留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時までの復習 ・ 本時の目標と課題の提示 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の目標と課題について、教師による英語を聞いて理解するとともに、「書くこと」のパフォーマンステストまでの見通しをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語によるOral introductionとする。 ・ 前時までの学習内容について、クラス全体にフィードバックする。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・ 聞いたり読んだりして理解した内容の共有 <p style="border: 1px solid red; padding: 2px; display: inline-block;">協働的な学び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報の整理と考えの再構築 <p style="border: 1px solid red; padding: 2px; display: inline-block;">個別最適な学び</p> <p style="border: 1px solid red; padding: 2px; display: inline-block;">協働的な学び</p> <p style="border: 1px solid blue; padding: 2px; display: inline-block;">必要に応じて周囲の生徒と相談したり、黒板を使用して何人かで話し合ったりすることも考えられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ICT機器を活用して、前時までに教科書等により読み取ったe-sportsとスポーツの類似点と相違点をオンラインホワイトボード（※次頁「オ」参照）に入力し、全体で共有する。 ・ 共有した情報を基に、相違点及び類似点の中で、いくつかの項目に分類する（※次頁「オ」参照）。 ・ 分類した項目について、そのように分類した理由を考えて、相手に伝えることを意識しながら、Googleドキュメントに入力する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 共有した類似点と相違点に対して英語でコメントをしながら、その具体や理由、根拠についてやり取りする。 <p style="border: 1px solid blue; padding: 2px; display: inline-block;">生徒が学習方法を選択できるように配慮する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 分類の仕方について、あらかじめ複数の方法を提示しておく。 <p style="border: 1px solid blue; padding: 2px; display: inline-block;">個に応じた指導（手立て）</p> <p style="border: 1px solid blue; padding: 2px; display: inline-block;">生徒の実情に応じて、1つの項目について分類した理由を複数挙げるなどして、より説得力をもたせた理由付けを促すことなどが考えられる。</p>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の振り返り ・ 次時の予告 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 整理した相違点や類似点、分類に関する気づきを振り返りシートに記入し、提出する。 ・ 次時の学習活動を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習支援ソフト上で教師に提出された英文は、パフォーマンステストと併せて評価資料として活用する。 ・ グループ内での発表及び全体での共有に向けて、語彙や文法の正確性にこだわり過ぎず、自分の意見と理由を的確に相手に伝えることを確認させる。

オ 学習の進め方や学習評価の工夫

(ア) 授業におけるICTを活用した情報共有の例（6時間目）

個人で思考した内容に関して、オンラインホワイトボードへ入力し、入力したフォームを全体で共有する。その後、他者の考えを参考に、自らの考えをオンラインホワイトボード上で項目に分けて分類する。



(イ) 振り返りシートについては、Googleドキュメントで作成し、Googleクラスルームを通して生徒に配付する。本時の目標や振り返りの観点を明示することで、自らの学習状況や今後の取組の改善を促すことができる。(6時間目)

振り返りシート

Today's goal

e-sportsとスポーツとの相違点や類似点について整理、分析し、英語で伝え合うことができる。

◆自己評価

GOAL

A : 達成した B : 概ね達成した C : 達成できなかった

振り返りの観点を明示し、生徒による自己の学習の調整を促す。

◆振り返り

観点 ・全体で共有した相違点や類似点について気付いたことは何か。
・いくつかの項目の中で気付いたことは何か。

◆教員から

授業中の言語活動の状況や、生徒の振り返りのコメントを踏まえて、生徒が次の学びに向かう（パフォーマンスを向上させる）ことができるようフィードバックを与える。

(ウ) 「e-sportsはスポーツといえるか」という問いについて、他者の意見や考えを活用したり、それらに具体的な内容を付け加えたりする（自己調整）ことで、主張に説得力をもたせながら自らの意見を書いている。(8時間目)

当初から持っていたアイデア

E-sports is not a kind of sports because players' physical fitness is not needed. Their physical skills and performances are not required through esports. A lack of experience of exercise can be caused. Next, beginners can win against professional players more easily than sports. They only have to press buttons to win a game. This is an unexpected luck for them

他者から気づきを得たアイデア

(エ) パフォーマンステスト（10時間目）

指示内容及び採点の基準については、学習支援ソフト上で、パフォーマンステストの前に提示することにより、生徒自らが目標を達成するために何をすべきか考えるようになる。また、学習支援ソフトの活用により、ループリックに基づく採点や生徒に対するフィードバックが行いやすい。

○指示内容

あなたがもし保護者だったら、子どもにe-sportsを勧めますか。二つの理由とともにあなたの考えを書いてください。

「あなたがもし保護者だったら」という視点を新たに加えることで、授業で学習した内容を踏まえて、「思考・判断・表現」がさらに深まるよう工夫している。

○採点の基準

条件1：立場を明確にして、その理由を二つ以上挙げている。

条件2：論理の構成や展開を工夫して、複数の段落から成る文章で書いて伝えている。

「思考・判断・表現」と一体的に評価する。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	多様な語彙や表現を適切に選択し、理解しやすい英文を用いて書いている。	二つの条件を全て満たした上で、論理に矛盾や飛躍がなく、より適切な理由とともに、意見を述べている。	二つの条件を全て満たした上で、論理に矛盾や飛躍がなく、より適切な理由とともに、意見を述べようとしている。
b	多少の誤りはあるが、理解に支障のない程度の英文を用いて書いている。	二つの条件を満たして書いている。	二つの条件を満たして書こうとしている。
c	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。

※生徒の解答例と評価例1 ※文法等の誤りを含む

I will not recommend to my children that they should not play e-sports. There are two reasons for that.

First of all, it does not good for their health. Their physical skills and performances are not required through e-sports. This brings about a lack of enough experience of exercise. They do not have to pay attention their daily diet or physical condition for e-sports.

Next, beginners can win against trained players. In real sports, players must train themselves to win a match. However, in e-sports, beginners can win only by press a button. This can be unexpectedly lucky for beginners. And they might think that everything go well without a lot of effort. That is not good for children. That is why I will not recommend.

※「採点の基準」に沿って、全ての観点で「b」と評価した。本単元の言語活動を通して学んだことを踏まえて思考・判断し、自分の考えを書いて表現している（しようとしている）と判断した。

I will discourage my children from playing e-sports. There are two reasons for this.

Firstly, it doesn't appear to be beneficial for their health as it doesn't require physical skills or performance. They don't need to pay attention to their daily diet or physical condition for e-sports, which leads a lot of children to a lack of exercise.

Secondly, beginners can defeat trained player in e-sports simply by pressing button, which can be seen as luck rather than effort. This might lead them to believe that success comes easily without much effort, which isn't beneficial for children.

Therefore, I choose not to recommend e-sports for my children.

※「採点の基準」に沿って、全ての観点で「a」と評価した。「b」の基準に加え、下線部のように、より論理的で、説得力をもたせるような理由と根拠を書いている（書こうとしている）と判断した。